

当社では、名古屋市の二つの顔である『名駅』と『栄』が、どのように変貌を遂げていくかを定点でその実態を追跡して行くことを進めております。今回、2017年に続き、2018年も4000超のサンプル数を確保し代表性のある定点調査を実施しました。

2017年、2018年『名駅』派『栄』派、買い物の行き先志向比較【JR東海道本線沿線都市編】

JR東海道本線沿線の市では、『名駅』派が優勢。

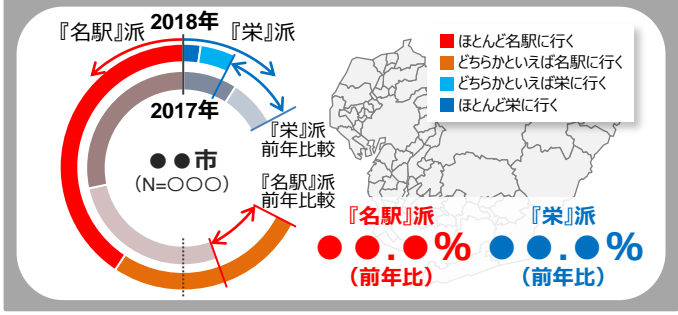
前年度比較においては各方面によって**変化に違い**が見られた。

前回レポートである「Vol.5 『名駅』派『栄』派買い物の行き先志向比較」では、名古屋市各区における行き先志向とその変化（2017→2018）を報告しました。今回は、行き先志向をJR東海道本線沿線の市に注目し、レポートします。名古屋市各区とは異なる傾向となり、また、前年比較では『名駅』を基点として各方面による違いが現れました。

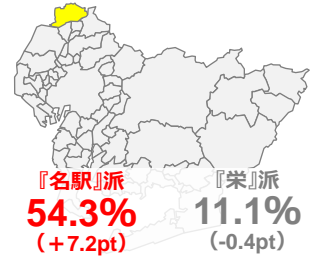
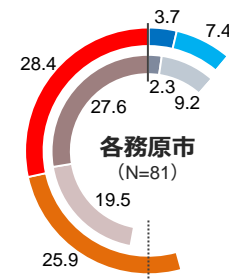
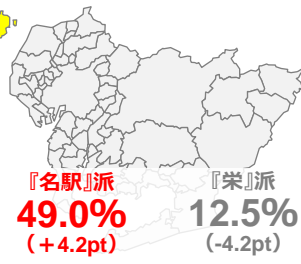
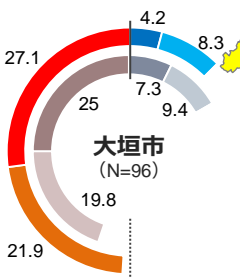
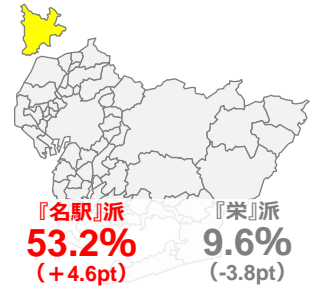
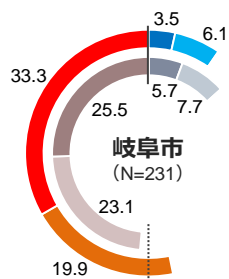
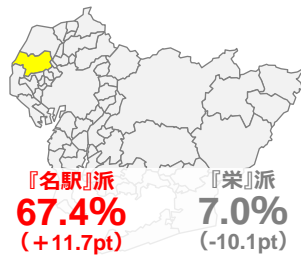
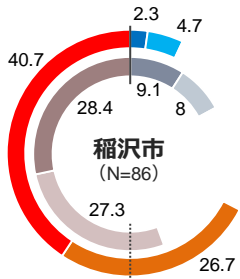
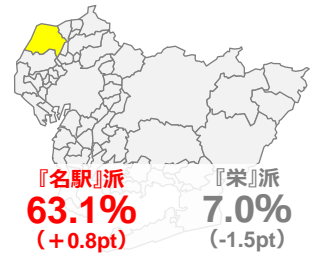
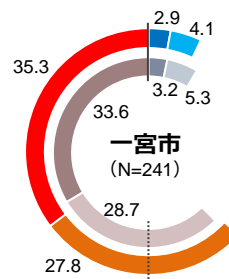
東海道本線（岐阜・大垣方面）沿線では、『名駅』派増加、『栄』派減少。 さらに『名駅』派の傾向が強まる。

東海道本線（岐阜・大垣方面）沿線地域では、調査を行った5市において前年との比較を行うと、すべての市で『名駅』派の増加と、『栄』派の減少が確認できました。特に、「稲沢市」にその傾向が強く『名駅』派が+11.7ポイント、『栄』派が-10.1ポイントとなりました。また、「大垣市」以外の4市において、『名駅』派が過半数を超え、50%～70%となり、『栄』派は10%前後となっています。以上より、東海道本線（岐阜・大垣方面）沿線＝尾張地方北西部+岐阜方面は、栄に行くために名古屋駅を経由しなければいけない地域であり、もともと『名駅』派が強かった地域ではあるが、JRゲートタワー開業後『名駅』派優勢の傾向はさらに強くなったと言えます。

グラフ記載例



JR東海道本線（岐阜・大垣方面）沿線

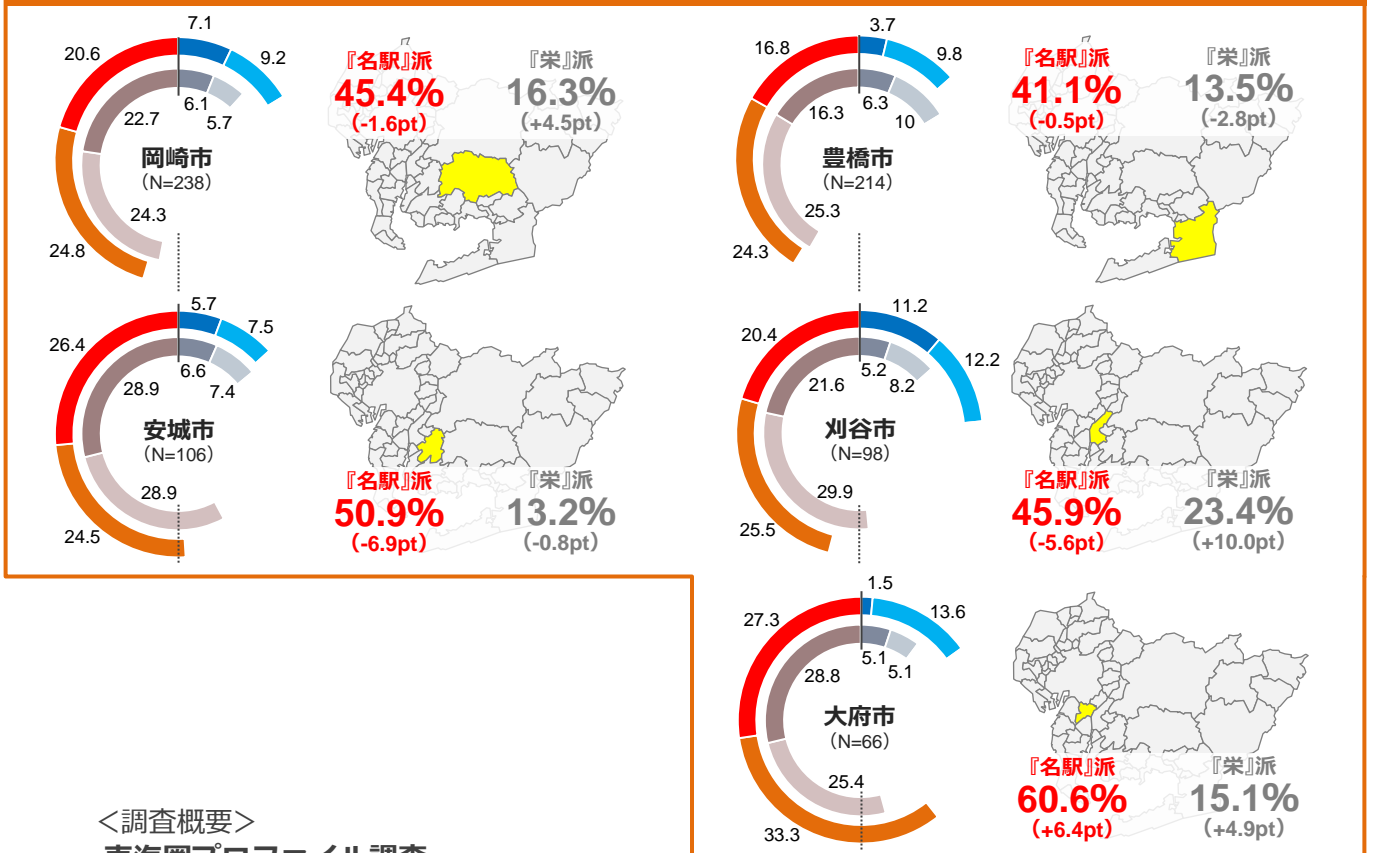


当社では、名古屋市の二つの顔である『名駅』と『栄』が、どのように変貌を遂げていくかを定点でその実態を追跡をして行くことを進めております。今回、2017年に続き、2018年も4000超のサンプル数を確保し代表性のある定点調査を実施しました。

東海道本線（岡崎・豊橋方面）沿線では、継続して『名駅』派が優勢。 しかし、前年比較では、『名駅』派減少と『栄』派増加の傾向が見られる。

東海道本線（岡崎・豊橋方面）沿線地域では、『名駅』派の割合が「安城市」「大府市」で過半数超え、その他3市で40%超えとなりました。『栄』派は、すべて10%以上となり、岐阜・大垣方面と比べると高い結果となっています。これは、栄に「金山駅」経由で行けるため、名駅と栄では違う動線となるのが理由だと考えられます。前年比較では「大府市」以外の4市で『名駅』派の割合が減少しています。さらに「刈谷市」においては『栄』派が10ポイント増加するという結果となりました。以上より、東海道本線（岡崎・豊橋方面）沿線＝三河地方南部は、依然として『名駅』派優勢ではありますが、昨年からの変化では、『栄』派の増加と『名駅』派の減少が見られる結果となりました。

JR東海道本線（岡崎・豊橋方面）沿線



<調査概要>

東海圏プロフィール調査

- 調査方法：インターネットリサーチ
- 調査地域：名古屋市周辺の東海三県（愛知県・岐阜県・三重県）主要都市居住者
- 調査対象：20～69歳男女 4,016サンプル
- 割付方法：実際の人口構成に近似したサンプル数配分（例：名古屋市1,531サンプル）
- 調査時期：2018年2月
- 調査機関：株式会社ジェイアール東海エージェンシー
オルフェウスコンサルティング株式会社

<調査結果の引用・転載、取材などに関するお問い合わせ先>

株式会社ジェイアール東海エージェンシー
企画マーケティング部 担当：糟谷・鈴木・大久保
TEL: 052-566-3312 e-mail: yuya-ookubo@jrta.co.jp